

ウイルス学会関連研究集会紹介

1. 第15回あわじしま感染症・免疫フォーラム

阿部 寛登

京都大学ウイルス・再生医科学研究所 ウイルス感染研究部門 分子遺伝学分野

2016年9月6日(火)～9日(金)の4日間、第15回あわじしま感染症・免疫フォーラムが淡路島夢舞台国際会議場にて開催されました。本フォーラムは、ウイルス学、細菌学、寄生虫学、免疫学の分野から国内及び海外の高名な研究者をお招きして討論する事で互いの研究内容を共有し、様々な病原体と宿主の相互作用から感染症を包括的に理解することを目的として毎年開催されてきました。2001年に東京大学医科学研究所と大阪大学微生物病研究所が主体となって始まりましたが、2013年より京都大学ウイルス・再生医科学研究所、北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター、長崎大学熱帯医科学研究所も主催団体に加わり、幅広い分野の参加者を迎えた国際会議となっています。



今回は京都大学ウイルス・再生医科学研究所の藤田尚志教授を大会長として開催され、海外から14名、国内から

連絡先

〒606-8507

京都府京都市左京区聖護院川原町53

京都大学ウイルス・再生医科学研究所

ウイルス感染研究部門 分子遺伝学分野

TEL/FAX: 075-751-4031

E-mail: abe.hiroto.48r@st.kyoto-u.ac.jp

16名の第一線で活躍する研究者を招待演者として迎えました。全体では211名の方が参加され、国内はもちろん海外からもアジアやアフリカ、ヨーロッパ、アメリカといった様々な国や地域から多数の参加がありました。会期中序盤は台風13号の接近による明石海峡大橋の封鎖等で参加者の到着に影響が出ましたが、その後は天候も回復し、幸い大きな乱れもなく会を進行させることができました。

本フォーラムでは様々な病原体が演題で扱われました。マラリア等の寄生虫や細菌、EBウイルス、インフルエンザウイルス、B型肝炎ウイルス(HBV)、C型肝炎ウイルス(HCV)、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)、ヒトT細胞白血病ウイルスI型(HTLV-I)から、エボラウイルスや重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)といったエマージングウイルスなど、その種類は非常に多岐に渡りました。また近年急速に明らかとなりつつある自然免疫を主軸とした宿主の免疫応答のセッションも設けられ、活発な議論が展開されました。演題の中には、今年大隅先生がノーベル生理学賞を単独受賞されて広く知られるようになったオートファジーと免疫応答・感染症の関係性の研究成果もいくつか見られました。



参加者の皆さんは国を越えて議論される最前線の研究成果に大いに刺激を受けた様子で、初日の夜に行われたウェルカムパーティー、3日目の夜に屋外で行われたBBQパー

ティーにおいても話が尽きないようでした。BBQパーティーでは、ホストである藤田先生の研究室のメンバーによる盆踊りが披露されました。海外からの招待演者の皆様も飛び入りで参加され、とても楽しんでいただけたようでした。

本フォーラムでは、口頭発表に加えてポスター発表も行われています。今回は121題の登録があり、このうち半数以上は留学生を含めた海外の研究者でした。また、このフォーラムでは海外の若手研究者に対して旅費の援助を行っています。その応募も募集人数を大幅に上回っていたことから、このフォーラムが世界的に広く認知されていることを感じます。

最後に、本フォーラムを盛り上げてくださった参加者の皆様に心より感謝致します。来年度の第16回あわじしま・感染症免疫フォーラムは、大阪大学微生物病研究所の飯田哲也教授を大会長として2017年9月5日(火)～9月8日(金)の日程で行われる予定です。是非奮ってご参加ください。

今回の写真は、下記サイトにアップされる予定です。

あわじしま・感染症免疫フォーラム

<http://awaji-forum.com/>

